

『DOBOT Audi R8 LMS』

Yoshiaki Katayama

Roberto Merhi Muntan

Seiya Jin



大会概要

2023年 SUPER GTシリーズ 第7戦

大会名称

2023 AUTOBACS SUPER GT Round7 AUTOPOLIS GT 450km RACE

開催日時

10月14日 土曜 (予選) 10月15日 日曜 (決勝)

開催サーキット

オートポリス (1周: 4.674km)

所在地: 大分県日田市上津町上野田1112-8

同時開催レース

2023 FIA-F4 選手権 第11戦・第12戦

主催

株式会社GTアソシエーション (GTA)

オートポリス倶楽部 (APC)

株式会社オートポリス

公認

国際自動車連盟 (FIA)

一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

経済産業省/国土交通省/国土交通省九州運輸局/自由民主党モータースポーツ振興議員連盟/大分/熊本県/日田市/竹田市/別府市/由布市/阿蘇市/菊池市/大津町/小国町/南小国町/
日田市観光協会/大分市観光協会/竹田市観光ツーリズム協会/別府市観光協会/由布市まちづくり観光局/
阿蘇市観光協会/菊池観光協会/肥後おおづ観光協会/ASOおぐに観光協会/南小国観光協会



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O



神 晴也
SEIYA JIN

生年月日 2000年10月30日
出身地 大阪府
身長 175cm
体重 70kg
血液型 Rh+O

■ 監督 太田 雅文
Masabumi Ota

■ スタッフ チーフエンジニア
クルーチーフ
チーフメカニック

Mattia Oselladore
小倉 啓悟
片岡 恵人

■ スポンサー

DOBOTジャパン株式会社
ザーレン・コーポレーション株式会社
TONE株式会社
高新自動車学校
ニチアス株式会社
エバー株式会社
コスモ開発株式会社
株式会社安藤・間
岡田金属株式会社
株式会社ジョイフル設備
カトー機械株式会社
株式会社デジテックエイチピー
株式会社マイティミズタニ
MIDTOWN BBQ
ウエスタンデジタル合同会社
青山エレベーター株式会社

エルアイピーリゾート株式会社
城東電機株式会社
ブランデュース株式会社
株式会社リブレ
見田工作株式会社
株式会社PACIFIC RACING TEAM
朝日金属株式会社
有限会社大和工業
有限会社ます徳
アクセル有限会社
ORIC
SPIN OFF
株式会社ケミテック渡部

◆ 予 選

天候 くもり

コース状況 ウェット/ドライ

気温 26℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 29℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 14時40分 (GT300クラスQ1-A組開始)



9月に行われた第6戦菅生で今季2度目の表彰台を獲得したTeam LeMansの#6 DOBOT Audi R8 LMS。念願の優勝を手に入れるべく、Aドライバーの片山義章、Bドライバーのロベルト・メリ・ムンタン、Cドライバーの神 晴也の3人体制で、オートポリス初となる450kmレースに臨んだ。

この第7戦には25台がGT300クラスにエントリー。いつもどおり予選はA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。#6 DOBOT Audi R8 LMSは片山がA組でQ1突破に挑んだ。

#6 DOBOT Audi R8 LMS**予選結果：19位（予選Q1ベストタイム：1分44秒715／片山選手）**

予選に先立ち同日9時25分から行われた公式練習では、ロベルトが6番手のタイムをマークして、順調な仕上がりをを見せていた。

予選の時点では気温18℃、路面温度25℃と予想以上に冷え込んだオートポリス。Q1 A組に挑んだ片山は3周目までタイヤを温め、4周目にタイムアタックに。ところが、シフトが落ちないというトラブルもあって、マークしたタイムは1分44秒715の10番手。次の周回では自己ベストを更新することはできず、8番手にコンマ143秒及ばず、10番手でQ2進出を逃した。

◆ 決 勝

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 17℃ (スタート時)

路面温度 27℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時36分

レース予定周回数 97周 (約450km)

**#6 DOBOT Audi R8 LMS (片山&ロベルト&神選手)****決勝結果：15位 (所要時間：2時間51分47秒830=89周消化／ベストラップ：1分47秒067=ロベルト選手)**

日差しはあるものの肌寒いオートポリスでは、パレードラップ、フォーメーションラップをそれぞれ1周したあと、13時36分、450kmレースの戦いの火蓋が切られた。

クラス19番手からスタートした片山は、オープニングラップでポジションを17位にアップし、その後も果敢な走りで12周目には13位に。13周目には上位を走る2台が接触によりポジションを落としたため、#6 DOBOT Audi R8 LMSは11番手と入賞圏内に近づいていく。

勢いに乗る片山はさらにポジションを上げ、一時7番手を走行していたが、18周目に#10 PONOS GAINER GT-Rをオーバーテイクする際のアクシデントが「他車との接触」行為と判定され、28周を終えたところでドライビングスルーペナルティを消化。翌周には予定していたピットストップを行い、ロベルトにマシンを託した。

18番手でコースに戻ったロベルトは、さっそく33周目にチームベストを更新する1分47秒067を叩き出し、その後も上位勢とほぼ同じペースで周回を重ねていく。56周目を終えたところで14位までポジションを上げたロベルトはピットストップを行い、2度の給油義務を消化する。

ロベルトは19位でコースに復帰後も追い上げの手を緩めず、73周目には14位までポジションを戻すが、レース終盤になるとピックアップによりタイヤのグリップが低下。苦戦を強いられたものの、ひとつポジションを下げた15位に留まり、苦しいながらも無事に完走を果たした。

厳しい結果となったものの、ライバル勢に速さを見せることはできた#6 DOBOT Audi R8 LMS。最終戦のもてぎでは念願の表彰台中央を目指す。

片山 義章 選手のコメント

予選では、練習走行に使った中古タイヤに比べてタイムが2～3秒変わってしまい、うまく合わせることができず、Q1通過はなりませんでした。

一方、決勝ではまわりよりも良いタイムで走ることができて、うまく追いつけていましたが、前に迫った10号車を抜く際に少し攻めすぎてしまって接触し、ペナルティを受けてしまいました。レースペースは悪くなかったぶん、自分自身のミスを後悔していますし、今後はもっと冷静になってレースを組み立てたいと思います。ロベルトに交替してからは、路面温度も下がり、コース上のタイヤカスも増え、ロベルトはピックアップに苦戦しました。

レース全体を振り返ると、もしペナルティを受けなかったとしてもポイント圏内に入れたかどうかは疑わしい状況でしたので、原因をチームで解明し、最終戦のもてぎには、今年の集大成のレースになるよう、チーム一丸となって臨むつもりです。

次こそは表彰台のてっぺんに上りますので、応援よろしくお願いたします。



ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

公式練習ではとても調子が良く、常にトップ6を維持することができました。また決勝でもマシンは快調で、ロングランとなるスティントでも速さをアピールできました。

ただ、スティントの序盤は良かったものの、途中からタイヤのグリップが低下し、苦戦を強いられることになりました。過去にこのような問題が発生したことがないため戸惑っていますが、これからチームでその原因を追求し、次の最終戦に備えたいと思います。



神 晴也 選手のコメント

今回のオートポリス大会にもCドライバーとしてチームに帯同し、先輩ドライバーからいろいろな刺激を受けることができました。また、ウェイトハンデがあるなかでも、決勝のペースの良さに、チーム力の高さを感じています。

次はわれわれAudiが得意とするもてぎだけに、しっかりと結果を残せるよう、チーム一丸となってがんばります。

チームコメント

今回のオートポリスはJAF GT勢が速さを見せるなか、DOBOT Audi R8 LMS はGT3勢で上位を狙えるポテンシャルを持っていました。ただ、予選でちょっとしたトラブルが発生したり、決勝でも接触によるペナルティを受けるなどして、その速さを十分に発揮できなかったことチームとして悔しく思います。次のもてぎでは、しっかりとレースを組み立てられるよういろいろなところを見直していきます。

一方、マシンについては依然として速さがありますので、次のもてぎはなんとしても上位フィニッシュを狙っていきます。最終戦を良いかたちで締めくくって、今年の成長を皆さんにお見せできるように準備を進めていきますので、引き続き応援をお願いいたします。



